

パパ・ママ子育て知恵袋

第36回は「世の中甘くない」

ついつい子供に手を上げてしまうパパ。

「ぬるいことをやっているとダメなんだ。厳しく身体で覚えさせないと、この子のためにならない。世の中甘くない」というのが、このパパの言い分。今や体罰は虐待ですが、昭和の時代は、このパパのような言い分がまかり通っていました。

子供を叩くのが愛情だとは私は思いません。

自分の感情を抑えられない大人の言い訳だと思います。

子供が悪さをしたのを叩いて反省させる？

叩かれた子は親に感謝しながら、よい子に育つ？

1ミリも賛同できません。

自閉症の子供を育てているママから聞いたお話です。

「コミュニケーションが取りづらいから、感情的になってしまうことは、よくあります。叩いたことは何度もあります。叩いても私の気持ちが子供に通じるわけはありません。わかっているけれど、つい手が出てしまう。怒鳴り散らしてしまう。あるとき、キイイ！となっている自分の顔が鏡に写りました。なんてひどい顔……落ちこみました。

かんしゃくを起こしている子供を置いて、トイレに駆け込み、鍵をかけて一人でさめざめと泣きました。30分もこもったでしょうか。トイレから出ていくと、かんしゃくの治まった子供はゲームをしていました。なんだかむなしくなりましたが、私の気持ちは不思議と穏やかになっていました。

それから子供に手を上げそうになると、私がトイレに避難しました。

なんの解決にもならないけれど、少なくとも手を上げずにすみませす。」

これが正しい対応かどうか、私にはわかりません。

でも、虐待のニュースを耳にするたび、このママのお話を思い出します。

確かに世の中は甘くない。

しかし、暴力では世の中をしなやかに、たくましく生き抜く人間は育たない。本当にそう思います。